

打出浜小学校に防災倉庫を設置しました



平成26年3月に打出浜小学校北西角に50㎡の防災倉庫を新設しました。倉庫には、災害時の救助用資機材および消火用資機材等を保管しています。地震発生時に誰もが使用できるように、防災倉庫のカギを取める防災ボックスを設置しました。この防災ボックスは、震度5弱以上の揺れを感知したら、自動でふたが開く仕組みになっています。



今年度、国道43号以南の避難所になっている市立小中学校の正門等に防災ボックスを設置します。これにより、地震時に避難してきた方が、どなたでも建物内に避難することができるようになります。また、打出浜小学校屋上に備蓄食料等を保管する備蓄倉庫を今年度末に設置します。



あしや防災ガイドブックを配布します

防災知識の向上と災害に備えることを目的に、災害に関する一般的な知識から芦屋市の防災対策、各種ハザードマップなどを掲載した「あしや防災ガイドブック」を作成しました。近日中に全戸配布しますので、ご家族や地域でお役立てください。

「あしや防災ネット」に登録しましょう



「あしや防災ネット」は、兵庫県や芦屋市からの防災情報を迅速・確実に伝達するシステムです。携帯電話やパソコンから「あしや防災ネット」に登録(無料)すれば、メールで通知が届き、警報発令などの災害情報・避難勧告・避難場所・気象情報等の地域に密着した情報を得ることができます。ぜひ「あしや防災ネット」にご登録ください。右記の2次元コード・URLから登録できます。



<http://bosai.net/ashiya/>

自主防災会加入のご案内

自主防災会は、「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚と連帯感に基づき自主的に結成する組織で、本市では、64団体が活動しています。市民の皆さんが、安心して暮らせるよう、行政や各町の自治会等と連携・協力し、地域防災力のさらなる向上を目指して活動する自主防災会への加入をお勧めします。



問い合わせ
芦屋市自主防災会連絡協議会事務局 ☎38-2093/☎38-2157(防災安全課内)

CATV 広報番組ガイド		放送時間
オープニング	東山北公園	① 9:00
トピックス	市民と市長の「集会所トーク」	② 12:00
特集	探訪 芦屋市の歴史的建造物 国の文化財	③ 15:00
お知らせ	芦屋市奨学金申請の受け付け 芦屋市外国人のための生活ガイド	④ 18:00 ⑤ 22:30
エンディング	芦屋の四季	※DVDの貸出可

■ 広報番組「あしやトライあんぐる」は、11ch(一部地域を除く)でご覧ください。
■ 番組に関する問い合わせ 広報国際交流課 ☎38-2006 ■ CATV全般に関する問い合わせ J: COM神戸芦屋カスタマーセンター ☎0120-999-000

市制施行70周年記念写真集 「芦屋の四季・70選」発売中

市では、市民の皆さんからの公募写真でつづった市制施行70周年記念写真集「芦屋の四季・70選」を、発売しています。市民の皆さんが切り撮った美しい現在の芦屋風景を、市制施行70周年の記念として、未来の自分への、また遠方のご家族や親しいかたへのプレゼントとしても、ぜひご活用ください。

■ 発売所 市役所北館1階行政情報コーナー
ラポルテ市民サービスコーナー

■ 定価 1,000円

問い合わせ 広報国際交流課 ☎38-2006

「芦屋市ガイドマップ」

全市の市街図のほか、市章の由来、市の木・市の花の紹介、市内の主な施設・窓口案内、歴史や本市の指定文化財「芦屋川の文化的景観」などを掲載しています。特集は、市内に点在する丸型ポストに焦点をあてた「丸型ポストのある風景」を取り上げています。

1人に1部を、市役所北館1階行政情報コーナー・ラポルテ市民サービスコーナーで差し上げています。

※印刷部数に限りがありますので、複数部数が必要な場合は、広報国際交流課へご相談ください。

問い合わせ 広報国際交流課 ☎38-2006

芦屋シティグラフ

市では、「芦屋シティグラフ」(A4判・52ページ/全カラー刷り)を発行・発売しています。芦屋の自然や史跡・名所、市内の施設をはじめ、芦屋のまちの楽しみ方をたくさん紹介しています。若い世代の皆さんにも楽しんでいただけるような情報もいっぱい。眺めるだけでも楽しい1冊です。後半には、行政の動きや統計などの情報も掲載しています。ぜひ、一度手に取ってご覧ください。

■ 販売場所 市役所行政情報コーナー
ラポルテ市民サービスコーナー

■ 定価 300円

問い合わせ 広報国際交流課 ☎38-2006

土砂災害の危険に備えましょう

毎年、梅雨から秋にかけて、台風や大雨による被害が全国各地で発生しています。昨年は、31個の台風が発生し、そのうち14個の台風が日本に接近しました。特に台風第18号に伴う大雨では、3府県に対して初めて特別警報が発表され、台風第26号では、東京都大島町で記録的な大雨を記録し、大きな被害をもたらしました。



め早めの行動をとることが皆さんや皆さんの家族の命を守ります。

特別警報の基準

現象の種類	基準
津波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合(大津波警報を特別警報に位置づける)
地震(地震動)	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合(緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報に位置づける)
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、もしくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合
暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により暴風が吹くと予想される場合
高潮	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により高潮になると予想される場合
波浪	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雷を伴う暴風が吹くと予想される場合
大雪	数十年に一度の降雪量になる大雪が予想される場合

詳細は、気象庁ホームページでご確認ください。
<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/tokubetsu-keiho/index.html>
なお、県と気象庁が共同で、土砂災害警戒情報を発表する場合があります。この情報は、大雨による土砂災害発生危険度が高まったとき、市長が避難勧告などを発令する際の判断や、住民の自主避難の参考となるよう市町を特定して発表する情報です。日頃から、土砂災害警戒区域をハザードマップで確認して、いざという時の避難経路を確認しておきましょう。

防災・減災特集

阪神・淡路大震災から、まもなく20年を迎えようとしています。震災により本市でも甚大な被害を受け、444人もの尊い命が奪われました。この悲しみを決して忘れてはなりません。この機会に災害について、もう一度みんなで考えましょう。災害を完全に防ぐことはできませんが、各種災害に関する知識を取り入れ、普段から備えることで被害を最小限にすることができます。

津波発生時における一時避難施設

※津波が発生し、または発生するおそれがあるときには、できるだけ高台へ(困難な場合は、鉄筋コンクリートの建物の3階以上へ)避難する。

名称	所在地
宮川小学校	浜町1-9
海技大学校	西蔵町12-24
保健福祉センター	呉川町14-9
木口記念会館	呉川町14-10
打出浜小学校	新浜町8-2
精道中学校	南宮町9-7
浜風小学校	浜風町1-1
潮見小学校	潮見町1-2
潮見中学校	潮見町20-1
精道小学校	精道町8-25
県立芦屋高等学校	宮川町6-3
体育館・青少年センター	川西町15-3
県営南芦屋浜団地1~6号棟	陽光町6-1~6
市営南芦屋浜団地1~6号棟	陽光町5-1~6
藤和ライブタウン芦屋呉川町ルミナス	呉川町13-3
ロイヤル芦屋松浜	松浜町8-18
芦屋バレスハイツ北館	平田町2-7
南館	平田町2-8
芦屋サンブラザ	平田町5-8
芦屋松浜ハイツ	松浜町5-15
県立国際高等学校・県立芦屋国際中等教育学校	新浜町1-2
U R 都市機構芦屋浜団地1~3号棟	高浜町2-1~3
U R 都市機構芦屋浜団地1~2号棟	高浜町4-1~2
U R 都市機構芦屋浜団地1~2号棟	若葉町5-1~2
県公社芦屋浜高層(高浜)団地1~2号棟	高浜町5-1~2
県公社芦屋浜高層(若葉)団地1~2号棟	若葉町4-1~2
県営芦屋浜(高浜)団地1~3号棟	高浜町8-1~3
県営芦屋浜(若葉)団地1~3号棟	若葉町7-1~3
市営大東町14番住宅	大東町14-16
市営大東町5番住宅	大東町5-9
市営大東町4番住宅	大東町4-16
市営大東町11番住宅	大東町11-7
市営大東町17番住宅3号棟	大東町17-3
市営若宮町住宅1号棟	若宮町2-18
株式会社永瀬本社ビル	精道町10-12
35カ所	—

平成26年3月31日現在

今後30年の間に60~70%の確率で、南海トラフ巨大地震が起こるとされており、最悪の場合、マグニチュード9規模の地震が生じ、本市では最大震度6弱の揺れが想定されています。また、本市には、地震から1~1.1分後に高さ3~7mの津波が到達するとされています。本市の海岸線は、防波堤で囲われていますが、宮川を遡上してくる津波が、地盤沈下した護岸から流入し、国道43号以南から防波堤線までのかなりの部分79ヘクタールが浸水すると想定されています。

地震による揺れを感じたら、津波が発生する可能性があります。テレビやラジオ、インターネットの情報に加えて、あしや防災ネット、防災行政無線などからの情報を収集しましょう。標高の低い地域にいる場合は、できるだけ標高の高い地域(国道43号以北)に避難しましょう。津波到達時間までに安全と想定されている国道43号以北に移動できない場合は、津波一時避難施設等の堅固な建物の3階以上に避難することで命を守ることができるとされています。ハザードマップ等で場所を確認しておきましょう。

災害はいつやってくるかわかりません。日頃からの備えが大切です。避難経路や避難場所を家族で話し合っておきましょう。けがの防止や避難の妨げにならないよう、家具の転倒防止対策を講じておきましょう。また、飲料水保存食料等を含めた非常持ち出し避難時すぐに持ち出せるように準備しておきましょう。



南海トラフ巨大地震に伴う津波浸水想定に注意しましょう